### はんどちゃんネットワーク運動 活動レポート

ひたちなか 市

[平成21年6月4日取材]



## 特定非営利活動法人(NPO) くらし協同館なかよし 「団地の高齢化学商店の閉店~」 そこから始まった新たな取り組みとは~

ひたちなか市にある本郷台団地は、昭和 40 年代後半に造成された約 1,000 戸の一戸建団地です。時代の流れとともに高齢者中心のエリアとなり、人口の減少や購買力の低下から、住民の日常生活を支えていた生協が平成16 年に閉店となりました。それにより、高齢者が買い物に不便を感じ、交流の場もなくなるなどの問題が出てのきました。この問題の解決に立ち上がったのが、塚越教子さんを代表とする団地住民のグループです。まずは住民のニーズを把握するためにアンケート調査を行い、地域の課題に住民自らが取り組む組織として NPO 法人を立ち上げました。生協による店舗の無償貸与、改装費の支援もあり、平成 17 年 11 月に「くらし協同館なかよし」をオープンさせました。

#### 地域を元気に、食を大切に

館内に入ってまず目につくのは、「食の支援コーナー」。 地元の生産者や事業者の協力により、新鮮な農産物や 加工品が届けられます。お寿司や赤飯など日替わり伝



いたいという思いが込められています。隣接する食事と 喫茶サロンは、家庭の味の日替わり定食がお薦め。毎月 第3木曜日には高齢者と介護者を対象に「ふれあい食事



会」(300円)も開催しています。入り口の「情報コーナー」には、持ち寄りの本を置いた「なかよし文庫」もあり好評です。畳の間の「ゆっくりコーナー」は、高齢者や小学生、若いお

今日は、こちらのからあげもおすすめですよ。

母さんの交流の場にもなっており、子育て交流会を月2回開催しています。「福祉製品展示コーナー」では5事業所の作品を展示販売しています。

#### ふれあいと生きがいづくり

「つどいのコーナー」 は趣味のコーナーで、 現在27講座を開講し ています。月曜日から 土曜日まで毎日、太極 拳・俳句・ハーモニカ 教室・字手紙などさま ざまな講座があり、講



師は団地や近隣住民のくらしの書道教室の生徒さんたち 方が協力してくれています。取材当日は、川嶌光雪先生 の「くらしの書道教室」が開かれていました。川嶌先生 も団地にお住まいで、スタート時からの協力者です。「書 道で手を動かすことは認知症の予防になり、字も上手に なります。何より人とふれあうことは、高齢者には大事 なことです」と川嶌先生は話していました。

#### 気軽に集まるみんなのたまり場



埋事長 塚越 教子さん オープンから4年目を迎えた現在、運営は順調で登録ボランティアは110人、利用者も1日200人に達しています。今後の目標は、「これからますます高齢者の生活面での問題が増加すると思われますが、地域住民が力を合わせれば、もっと住みやすくなるはずです。すでに認知症サポーターの養成や、一

人暮らしの高齢者へのお弁当宅配サービスも始めていま す。コミュニティ全体で取り組み、安心して暮らせるま ちにしていきたいです」と塚越さん。

「くらし協同館なかよし」は、地域に暮らす人びとに とって頼もしい存在です。そしてその存在を支えている のは、地域に暮らす頼もしい人びとでした。

# いばらきの社会福祉

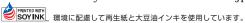
Social Welfare of Ibaraki

発行者/社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会

〒310-8586 水戸市千波町1918

電話 029(241)1133(代) FAX 029(241)1434

ふくしネットワークいばらき (http://www.ibaraki-welfare.or.jp/) (E-mail ibashakyo @ibaraki-welfare.or.jp)





携帯電話で読み取るだけで簡単に「ふくしネットワークいばらき」にアクセスできます。